

大学生協東海友の会だより

創刊号

2025年8月1日

大学生協東海友の会

TEL 052-839-2898

(インターカレッジコープ愛知内)

大学生協東海友の会 会報発行について

皆さん、ご無沙汰しております。暑い夏ですが、お元気でお過ごしでしょうか。コロナなどの関係で、友の会の活動も昨年の総会まで止まっていたましたが、日ごろの皆さんの活動や近況などを交流する為に会報を発刊することとしました。今後、定期的に発行していきたいと思えます。

皆さんの投稿もぜひお待ちしております。何卒よろしくお願いいたします。

さて、山火事や大洪水など異常気象が相次ぎ、地球は「温暖化」から「沸騰化」へと進んでいるように感じられます。しかし、欧州と比べて日本政府の対応は鈍く、参院選でも気候問題は大きな争点になりませんでした。ティッピングポイント（注）を間近に迎えようとしている中、アメリカでは気候変動を無視するトランプ氏が再登場し、世界の行方に不安が広がります。さらに関西電力は老朽化した美浜原発の新增設を表明し、政府も原発依存の方針へと転換。福島原発事故の教訓が忘れられつつある現状に、強い危機感と怒りを覚えます。日本には自然エネルギーの大きな可能性があるにもかかわらず、それを十分に活用せず原発に頼る姿勢には疑問を感じます。次世代に沸騰化した地球を残さぬため、私たち一人ひとりが行動を考えるべき時です



代表幹事 佐野和宏

（注） 物事の分かれ目。特に、小さな変化が蓄積した結果、ある時点を境に劇的な変化を起こす現象についていう。分岐点。転換点。「地球温暖化のティッピングポイント」というように使われる

予告

第3回大学生協東海友の会総会・懇親会

日時：2026年6月6日（土）

場所：名古屋市立大学滝子キャンパス食堂ホール（地下鉄 桜山駅徒歩8分）

お願い

- ①大学生協東海友の会総会・懇親会に参加できるように日程調整をお願いします。
- ②田辺準也著「買い物の協同 人と人のつながり・絆」私的回顧録をぜひご購入ください。
- ③大学生協での思い出シリーズの記事を募集しています。投稿をお願いします。
- ④大学生協思い出の写真、データ、映像などお貸しして頂けませんか？
(記録づくりに活用させていただきます)

連絡先

大学生協東海友の会事務局（大学生協東海会館内）

〒466-8657 名古屋市昭和区山手通2丁目16-1

担当事務局：村瀬健一（TEL 052-839-2898 FAX 052-839-2894）

E-mail: tomonokaitokai.staff@gmail.com（葛谷、加藤、村瀬）

つながり、いつまでも、会報発行への期待、

私、もうじき87歳、長寿時代とはいえ、随分長生きしました。

どういう人生だったか、特にこれというものはありませんが、良い人、信頼できる人ばかりに恵まれ、幸せな人生だったと思います。親、兄弟、友達は何論、大人になってもです。こんな風に思えるのは嬉しい限りです。勿論、人の性格、振る舞いは多種多様で利害も錯綜します。実際は様々な軋轢、争いがありました。ここへ来て、妻も無くし、沢山の友人知人ともお別れし、寂しさが募っています。確かだと思っていた暮らしの安心が揺らぎつつあります。

これは仕方がないことか、老いの宿命か、などと考えます。でもそれでは何か惨めです。考えてみると、私がこれまで安心な暮らしを享受できてきたのは、沢山のひととのつながり、交流、対話、助け合い、の組み合わせ、そこから生まれる信頼、だったと思います。

このことを実践し、確信にまで引き上げたのは、間違いなく生協運動でした。当たり前前の暮らしをより良いものに、と目指す大学生協は、最先端の科学技術を目指し、切磋琢磨し、競争に励む大学にあってはまさに異端、でも優劣、格差、勝敗が当たり前の中で、食堂、購買など、当たり前前の暮らしの願いだからこそ協同できた経験は、誰ともつながり、交流し、信頼を築く仕組みとして格別の意味を持っていました。この経験は地域生協でも生かされ、今では世界の協同、協同組合の一翼となっています。

私にとっては得難い経験でした。

こんな経験を、継承できないか、そんな思いで、冊子、めいきん生協の40年、私的回顧録、買い物の協同、人と人のつながり、絆、を書かせていただきました。つながり、信頼こそ貴重な私の財産、会報発行の機会に、改めてみんなでの、発信、交流、つながりの充実、ひろがり期待します。



田辺 準也

2025. 5. 30 田辺準也

「めいきん生協の40年・私的回顾録」著者 田辺準也 名大生協の誕生、再建した大学生協による地域生協設立活動

「学ぶことは食うこと」から

名大生協は、戦争の余韻が残る、国民の多数が飢えに苦しんでいた時期「学ぶことは食うこと」と言われた時代、名古屋大学の学生たちの手で誕生しました。

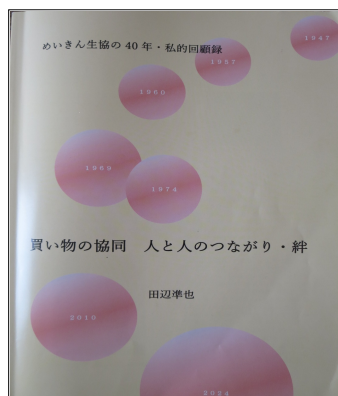
1947年医学部学生により、配給物資の一部、国民パンの配給権を得るために生協づくりが始まったということです。

1950年経済学部では教室の片隅にウィンドケースを置き、ノートなど文房具を販売しました。講義録をガリ版で刷り販売したとも言われます。

そうした各学部の様々な学生の活動の上に1957年名大生協は誕生しました。

食と学ぶための必死の思いが動機だったことは教訓的です。

必要に迫られ出発の当初から、全ての活動が学生組合員、即ち消費者自身の手で担われていました。雇用された職員というものはいませんでした。そこでは学生自身が商品仕入れ、販売、経理、理事会運営を進めていました。



この続きは「買い物の協同 人と人のつながり・絆」著者 田辺準也 ぜひご購入ください。

お問い合わせ NPO地域と協同の研究センター

名古屋市千種区稲船通1-39 コープあいち生協生活文化会館3階

電話：052-781-8280 FAX：052-781-8315 メール：AEL03416@nifty.com

A4判 100頁 頒価 500円（税込） 郵送希望の方は610円（税込）

私の大学生協と平和行進との関わり

私は、90年に名古屋大学に入学し、名古屋大学生協の学生委員として活動してきました。その後大学院に進学しましたが、研究職より社会活動に関心があり、半年で大学院をやめ、名大生協に就職をしました。後に本格的に社会活動に携わる仕事の要請を受け、名大生協は2年半で退職してしまいましたが、今の私を形作っているのは、学生時代から生協専従を務めたことが大きかったと思います。

平和行進に初めて参加したのは、大学2年生の時、91年の名古屋市内の青年学生の集中行進でした。当時から国民平和行進と市民平和行進の「軋轢」は耳にしていました。しかし、植田から栄まで歩く名古屋の集中行進は、青年学生も、国民平和行進、市民平和行進の皆さんがともに歩いて行く、共同共闘の意義を実感できるものでした。それは今私の住む東三河の共同行進とも共通するものとなっています。

学生時代から7年にわたって歩いた名古屋の集中行進では、通し行進に取り組みれていた、いずみ生協や和歌山生協のみなさんの歌やコールに盛り上げられ、「折り鶴」「ヒロシマのある国で」「青い空は」など、心打つ歌も覚えてきました。沿道の皆さんにまっすぐ平和を訴える活動は、「明るく楽しく元気よく」というメッセージの通り平和の活動の一つのありようを示すものだと感じています。

昨年の被団協のみなさんのノーベル平和賞は、被爆者の皆さんの核廃絶へ向けた信念が評価されたとともに、平和行進はじめ核廃絶のための市民の運動が切り開いたものだと思います。今、平和運動に携わる方々の高齢化も進み、取り組みに変化はありますが、ぜひとも将来にわたって引きついでゆきたいものです。



斉藤 啓

被爆80年 日本こそ核兵器禁止条約の先頭に！ 原水爆禁止

あいち平和行進 2025

5/31-6/11

今年で68回目となる
原水爆禁止国民平和行進です！
私たちは、1945年8月6日、広島に原爆が落とされたことをきっかけに、戦争の廃絶と平和の達成を目指して活動しています。被爆者の苦しみを二度と繰り返さないために、市民の力で平和を築いていきます。

第一の安全保障は、核兵器の廃絶！
世界の動向はウクライナではいまだロシアによる侵略戦争が続いています。世界の平和と安全を脅かしています。ロシアの侵襲を許さず、力で平和を築くことはできません。核兵器の廃絶を求めます。

2025年5月31日、6月11日、名古屋市内の主要な通りを歩きます。被爆80年、1945-2025

日本被団協がノーベル平和賞受賞
いっしょに歩こう
署名をあなたも
被爆者の願いをつなごう

最新情報はWebで
あいち平和行進 www.pacifism-japan.org/

1945年から毎年、全国に広がり、規模を伸ばしています。

6/11 あいち被団協 大ホール
5/31 あいち出陣 豊橋市



みよし協働農園の会 現地取材

NPO法人みよし協働農園の会へ、中心となって活動している理事長の加藤憲さん(元名勤生協)、長尾邦松さん(元愛教大生協)に取材のため5月25日現地に行きました。みよし協働農園の会は、農業者と農業に関心のある市民が協力し合い耕作放棄地・遊休農地の有効活用をすすめ、大地から食べものを育てる楽しさを広げることを通して自然環境を守り発展させ、市民の「農」ある豊かな暮らしの実現に寄与することを目的に、以下の4本柱で事業活動をすすめています。

1. 共同耕作事業
2. 市民農園事業 (現在 市内3か所 150区画 1区画30㎡)
3. 体験農園事業～収穫体験・手作り体験
4. 自然環境保護事業



長尾 邦松

当日は6月開催のトウモロコシ&ジャガイモ収穫体験会の準備とサツマイモ苗の植え付けを行いました。



収穫体験農園看板



長尾邦松さんの進行で朝のミーティング



加藤憲さんサツマイモ苗の植え方指導



サツマイモ苗を植えました



サツマイモ苗の周りに草を置く



トウモロコシ根元の草取り、雄花チェック

6月21日(土)に行われたトウモロコシ&ジャガイモ収穫体験会は参加費1組600円(トウモロコシ5本、ジャガイモ1株)大好評。参加は117組、300名余、蒸しトウモロコシの振舞いもされました。

理事長の加藤憲さんより、みよし市「食料自給率向上宣言」要望書を出すとの報告がありました。みよし市は国の食糧自給率38%を大きく下回る9%になっています。市内の農業従事者は様々な事情により農業経営が厳しく、従事者の高齢化と従事者の減少がすすみ、農業後継者も極めて少なく、市の食糧自給率はさらに低下が懸念される状態になっています。市民の安心、安全の暮らしは食糧が安定的に保障されることが基礎であり、農業は市民の食糧を生産する重要な役割を担うと同時に、田畑は多様な生態系、自然環境を守り、さらには災害防止の役割があります。農業の衰退は市民の安全・安心の暮らしの危機でもあると深く憂慮しています。こうした中で市民の英知を集めて、みよしの農業を支援し、食糧自給率向上のための施策を求めて、みよし市が「食料自給率向上都市宣言」を出すことに賛同する団体を募っています。現在11団体が賛同署名しています。1~2か月後にはみよし市長への要望書を出すそうです。

(現地取材 葛谷光雄)

記憶から記録へ

2003年～

大学生協での思い出シリーズ

～学生生活110番誕生秘話～

東海地区の大学から全国に広がったあたらしい事業活動

■愛知大学（名古屋）周辺のアパートで「詐欺事件」が起こった

「学生生活110番」誕生のきっかけは、愛知大学（名古屋）学生委員会の合宿中、夜の雑談から生まれました。ある学生委員がアパートに学生らしき人物が訪ねていて、「親父が危篤で急に九州へ帰らなければならない、新幹線代の2万円を貸してほしい。月末までには必ず返すから」と頼まれた話をしました。相手の携帯番号を聞き、困っている学生を助けるつもりで貸しました。2か月過ぎても返済されず、電話もつながらなくなりました。不安を感じながらも相手を信じて待ち続けました。この話をすると「実は俺の友達も同じ目にあった」「私も似たような話を聞いたことがある」と、次々と同様の被害が報告されました。この時初めて、単なる個別のトラブルではなく、計画的な詐欺事件であることに気づきました。この経験をきっかけに、学生同士が情報を共有し、被害を未然に防ぐ仕組みが必要だと考え「学生生活110番」が誕生したのです。



葛谷 光雄

■アダルトサイトから「不当請求事件」広がる

他の学生委員からも「実は僕も30万円の借金があり、バイト代では返せず困っている」と打ち明けました。理由を聞くと「興味本位でアダルトサイトを開いてしまった」とのことでした。その後、「5000円の利用料金が未納のため至急支払うように」との請求があり、すぐに支払いました。しかし、その後も1万円、5万円、10万円と次々に請求が続き、最終的には30万円になってしまいました。支払いに困り、学生委員会合宿で相談することになった。すると、「実は俺も請求が来て困っていた」「僕も5000円を支払いに行くところだった」など同様の被害を受けた学生が次々名乗り出てきました。こうして、学生の間で「不当請求」が広がっている実態が明らかになったのです。

■桶川ストーカー殺人事件から女子学生を守るには

私の娘や大学生協の女子学生が同じ被害にあった場合を考えると警察の対応には強い怒りを感じました。「桶川ストーカー殺人事件」とは被害者の女子大学生は、交際相手だった男Aに一方的に恨まれ、彼とその兄たちから執拗なストーカー行為を受けました。被害者は埼玉県警に何度も被害を訴えましたが、警察は必要な措置を講じませんでした。そして1999年10月26日、加害者らは共謀の上、桶川駅西口で被害者を刺殺しました。母親が「娘が殺される」と繰り返し警察に訴えていたにも関わらず、適切な対応がされなかったことが社会的な大きな問題となりました。この事件を契機に、日本では「ストーカー規制法」が制定されました。

■大学生活を安心・安全暮らしをすすめるために！！

大学生活を安心・安全におくるためには、衣・食・住の提供だけでは不十分だと考えるようになり、どのように解決できるか模索しました。ちょうどその頃、取引先の社長から月刊雑誌「日経ベンチャー」を紹介されました。記事を読むと、ある社長が「24時間・365日、困った人を助ける企業として挑戦したい」と語っており、その言葉が私の心に強く残りました。そこで、その社長に会ってみたいと思い、会社の住所を調べたところ、名古屋市内にあることがわかりました。すぐに連絡を取り、アポイントを取って会うことができました。その会社は「ジャパンベストレスキューシステム（JBR）」当時はバイク版JAFのような事業を中心に展開していました。私は大学生活におけるさまざまな困りごとを解決できるシステムを作りたいと考え「アパートの詐欺事件」「不当請求」「ストーカー事件」「自転車のパンク修理」「トイレの詰まり」など多岐にわたるトラブルへの対応を提案しました。すると、社長は「数年前は私も大学生だったので、気持ちはよく理解できます。困っている学生のためにシステムを一緒に作りましょう」と即答してくれました。

■中規模私学交流会（東海地区）で相談し、東海地区から全国の大学へ

大学生協では私立中規模生協の交流会が活発に行われ、新しい店舗や取り組みについて意見交換が行われていました。その中で、学生組合員の困りごとを解決するシステムの導入を提案しました。すると、「JBRという会社は信頼できるのか」「組合員の費用負担は問題ないか」など、さまざまな意見が出されました。しかし、全体的には好意的な意見が多く、導入をすすめることになりました。2003年に学生生活110番がスタートし、愛知大学（名古屋・豊橋）中京大学、名城大学、日本福祉大学、金城学院大学など東海地区の10生協（1025名）から取り組みが始まりました。2005年には全国大学生協連合会の取扱窓口となり、全国の大学へと広がって行きました。それから21年を経て、現在では取扱生協が10生協から212生協へ、会員数は1025人から25万人以上へと拡大しています。

■「学生生活110番」スタートしてすぐの出来事

2003年、東海地区で学生生活110番がスタートして間もなく、日本福祉大学の学生から元彼によるストーカー行為の相談が寄せられました。相談者は深夜に友人へ相談し、その友人が学生生活110番の会員だったため、学生生活110番へ連絡しました。学生生活110番スタッフは相談者とともに警察へ同行しました。警察は「部外者は外に出てください」と繰り返し言いました。しかし、スタッフは「私は相談者の代理人です」と粘り強く交渉し、同席が認められました。また、録音許可を取り全て記録しました。その後、警察のパトロールや親同士の話し合いにより、ストーカー行為は解決することができました。

当時はアダルトサイトの不当請求相談も多く、特に深夜に集中していました。「24時間・365日対応の必要性は間違いなかった」と実感し、消費者相談員の助言を受け「不当請求には対応しない」ことを徹底しました。この内容を大学の学生課や学生相談室に報告し、大学掲示板にも「不当請求への対応方法」を掲示しました。

「学生生活110番」の開設により、水面下で起こっていた問題が大学や行政と連携して対応させるようになり、被害者防止活動が本格的にスタートしました。

■あいち消費者被害防止ネットワーク（NP0法人）誕生

2004年、弁護士・消費生活相談員・地域生協・大学生協などが連携し、消費者被害を防止するためのネットワークづくりの必要性が高まり、適格消費者団体の認定を受けるためにNP0法人の設立を目指すことになりました。

大学生協の役割は、①学識経験者（専門研究者）を探すこと ②広報宣伝用パンフレット作成を担当することでした。学識経験者を探すため各大学の研究内容を調査したところ、適任者がすぐ近くにいました。愛知大学法学部教授 杉浦市郎（元愛知大学名古屋生協理事長）先生は消費者法を専門に研究され、著書も多く執筆されていました。名勤生協（中村）と大学生協（葛谷）が杉浦教授の研究室訪問し、NP0法人設立へのご協力を依頼しました。杉浦教授はボランティアにもかかわらず、快く引き受けてくれました。そして、2005年には学識者・弁護士・司法書士・消費者相談員・地域生協・大学生協が連携し「あいち消費者被害防止ネットワーク（NP0法人）」が発足しました。代表には杉浦市郎教授が就任しました。

2010年には内閣総理大臣より適格消費者団体として認定を受け、名称を「特定非営利活動法人 消費者被害防止ネットワーク東海」に変更。東海エリアにおける消費者被害の未然防止・拡大防止活動へと幅広い活動を行っています。

■大学生協「学生生活110番」内容は



記憶から記録へ

2003年～2005年

大学生協での思い出シリーズ

チャレンジ企画～八百津の森づくり～

大学生協・全日空・ZIP-FM・八百津町

2003年～2005年まで、岐阜県八百津町で「私の青空 八百津の森づくり」を開催しました。この企画は大学生協東海地域センター（現東海ブロック）の学生委員会が中心となり、2002年に大学生協・全日空・ZIP-FM・八百津町で実行委員会を結成し、3年間実地しました。目的は環境問題、平和の問題を体験を通して学生組合員に広げていく活動を行うことでした。全日空が社会貢献活動として費用の多くを負担していただき、ZIP-FMは「私の青空 八百津の森づくり」の特集番組を行い、学生実行委員会メンバーが放送番組に出演する活動紹介を行いました。



今井 昭弘



2003年大学生協、全日空、ZIP-FM、八百津町で実行委員会結成、そして300名参加

瞑想の森に今も看板があります

八百津町では瞑想の森をメイン会場として用意していただき、八百津町森林組合の指導によりチェーンソーの使い方、間伐材の処理の方法、森のづくりには間伐が必要なことや環境問題に大きな影響があることを現地で学ぶことができました。

昼食には地元の主婦の方によるおにぎりと地元の食材を使用したみそ汁などごちそうになりました。

岐阜県森林活用推進課職員より清流の源である「森林」を「守り」「活かし」「親しむ」取り組みを通した、森林の新たな価値の創造を進めていく重要性の講義を受けました。



学生たちはチェーンソーの使用方を森林組合の方から教えてもらう

京都大学吉岡教授の環境問題について青空教室



森林の間伐の必要性和間伐体験指導を受ける

八百津町森林組合、岐阜県職員とのパネルディスカッション

平和問題について、八百津町には人道の丘公園、杉原千畝記念館があります。八百津町出身の外交官・杉原千畝さんが、第二次世界大戦中に、ナチスドイツの迫害をかわそうとポーランドからリトアニアに逃れてきたユダヤ人数千人の命を救った偉業を讃え、後世に伝えるために造られた公園です。杉原千畝さんの偉業については隣接の「杉原千畝記念館」に展示されています。



参加者の声

- ・切ったばかりの木が濡れているのに触ったのは初めてで、感動しました。
- ・木の重みを感じました。木を倒すときは怖かったけど、楽しかった。
- ・間伐という貴重な体験もでき、森の大切さを今一度知ることができ、とてもためになりました。

杉原千畝記念館長さんよりユダヤ人迫害や憲法9条改正など平和について話されました

夕食前に戦争と平和資料館ピースあいちより戦争体験者松原さん（元名古屋市職員）の話を聞きました

環境問題や平和問題など硬い企画ばかりではなく、ZIP-FMアナウンサー都竹悦子さんと中京大荒館君の司会で始まり、青空の下でルゴルジェのライブ演奏は大変盛り上がりしました。

大学生協と企業、自治体、放送局が実行委員会形式で行う活動は全国的にも初めての活動ではないかと思います。

みなさんの近況報告・大学生協時代の思い出・記憶を友の会事務局へお寄せください

E-mail: tomonokaitokai.staff@gmail.com (葛谷、加藤、村瀬)

「大学生協東海友の会」のホームページにアクセスしてみてください。

(1) 大学生協東海友の会のページは、大学生協事業連合東海のページ <https://www.univcoop-tokai.jp/index.html> の中にあります。「大学生協東海友の会」直接のリンク先（友の会ページ）はこちらになります。

https://www.univcoop-tokai.jp/etc/etc_594.html

(2) 会員専用ページには会員の情報を多数掲載しています。アクセスのための

パスワードは、「tomonokaitokai」（全て英小文字）です。会員専用

ページへの直接のリンクは、https://www.univcoop-tokai.jp/etc/etc_595.html



編集後記

7月の参議院選挙では、政権与党を少数に追い込むことはできたものの、与党を支える補完勢力や、外国人差別をあおる排外主義的・極右的な勢力が議席と得票数を伸ばす結果となり、私たちにとっては残念な選挙となりました。こうした勢力の拡大は、人権や民主主義、平等といった社会の基本的価値を脅かすものであり、私たちはその危険性を直視し、これらの価値を守り抜く立場の人々を広げていく必要があります。特に今回大きく議席を伸ばした政党は、現行憲法を「ゼロから作り直す」とし、憲法草案を提示していますが、その内容には国民の義務を過剰に強調し、権力者の監視が弱まり、「非国民」といった概念を生み出しかねない危うさが含まれています。本当にこのような憲法草案が支持されての投票だったのか、深く検証する必要があります。SNSなどで得た断片的な情報だけで判断されているとすれば、社会は非常に危うい方向に進むことになります。

編集委員：佐野和宏、葛谷光雄、松本信幸、長尾邦松、細江真澄、吉川太郎、斉藤朗、加藤肇